

フランスよ、君はまだ農民を必要としているか？

1 忘れられた人々、その名は農業者

BonoとPurseigle (2024) は、フランス農業者のデモや2024年の欧州議会議員選挙、フランス国民議会議員選挙での農業者の投票行動から、農業者の現状認識を分析した(須田2025)。その参加頻度は様々であるが、農業者の39.6%は2023～24年の冬のデモに参加しており、参加はしていなくてもこうした行動を多くは支援している(43.8%)。参加もせず、支持もしない農業者は13.6%にとどまる。「あなたが考えるに、こうした農業者に抗議行動を促した主たる理由は何か」という問に対しては、「環境規制や煩雑な行政手続き」にうんざりしたことを最初に挙げ(49%)、ついで「忘れ去られている」という感情がこれに続く(37%)。トラクターによるデモで横断幕に掲げられたスローガン「フランスよ、君はまだ農民を必要としているか？」という呼びかけは、こうした農業者の苦悩を代弁していよう。これに対し、「正当な報酬の要求」という理由を挙げる農業者は12%でしかない。ホックシールドは、アメリカの白人労働者がトランプを支持する理由として、経済よりもむしろ感情(自国にいながら異邦人であるという疎外感からの解放)が勝ることを指摘するが(『壁の向こうの住人たち』岩波書店)、欧州やフランスの農業者のデモからは、自分たちは環境派や都会のエリートたちから敬意をもって扱われていない、というルサンチマン(怨嗟)が伝わってくる。

フランスでは6年に一度、各県での農業政策の舵取りを担う、農業会議所の選挙が行われ、2025年1月に同選挙が実施された。その投票は、急進右派の台頭が農業団体にどの程度浸透しているか、その結果により農政がどのように変更を迫られるかを占う上で注目されていた。同会議所選挙では農業経営者の選挙人は40万8,000人である。投票率で見ると、1983年に70%であったものの、徐々に減少し、2019年には46%となった。今回は、近年におけるフランスを含むEU全体での大規模な農業者デモが発生し、主要農業団体は積極的に選挙活動を行い、投票率は48%へとわずかながらも上昇した。この選挙では主流派の全国農業経営者組合連合会(FNSEA)とその青年部組織(JA)との連合が46.7%(2019年55.3%)、コーディネーション・ルーラル(CR)が29.9%(同21.5%)、農民連盟(CP)が20.5%(同20.0%)という結果であった。農業者組合は政治的中立を組織原則としているが、FNSEA/JAは政治的には中道・中道右派の政党支持の傾向があり、CRは急進右派、CPは急進左派・環境派に近い。おおむね、EU議会選挙や国政選挙の結果と同様、主流派は初めて50%を割り込み、CRが急成長し、農業団体の中でも急進右派的傾向が台頭していることが、今回の選挙結果からもうかがわれる。

2 多様な農業者

BonoとPurseigle (2024) は上述のアンケートの中で、さまざまな指標や「あなたはEUに何を期待しますか」という自由記述欄の回答を分析することで4つの農業者のタイプを描き出しているため、以下に紹介しておこう。

- (a) オルタナティブ系エコロジスト(農業者の17.8%)。高学歴で、50ha未満、農業所得月額1,200ユーロ未満の小規模農業者で、アグロエコロジーへの支援を訴える。組合としてはCPに、政治的には環境政党EELVないし急進左派LFIに近い。
- (b) アイデンティティ的農業保守(21.6%)。社会でも、地域でも疎外感を感じている、年齢的には40代以下の若い層で、低い学歴資格。穀物や酪農畜産といった専門地帯ではなく、複合経営地帯、低迷するブドウ産地に多い。1,500ユーロの月額所得。組合はCRに、政治的には急進右派に近く、EUに懐疑的。
- (c) 曖昧な保守(30.1%)。200ha以上の経営。組合はCRないしFNSEAに、政治的には急進右派、中道右派LRに近い。第三国からのEU農産物市場の保護を求める。
- (d) ヨーロッパに好意的な、自由貿易主義者(30.3%)。56歳以上で、200ha以上、2,000～5,000ユーロの最も高い所得の層。自らを企業主と捉え、競争力向上のため、EU域内での環境規則の調和を求める。主流派農業団体FNSEA/JAに近く、政治的には政権与党、中道右派LRに近い。

フランス農政はこうした多様な農業者全体を満足させるような一律の回答を有しているわけではない。本年3月のFNSEA大会で、農業大臣は「我が国の農産物・食品純輸出額は、2024年に過去40年で最低であった。輸入額を減らすためには、より多く生産しなければならない」とフランス農業競争力の現状に危機感を示した。急進右派の台頭や、高インフレ下の消費者購買力の低迷により、環境テーマがフェードアウトしつつあるようだ。

<参考文献>

- ・ Bono, P.-H. and F. Purseigle (2024), *Les agriculteurs français à la veille de l'élection européenne*, Sciences Po.
- ・ 須田文明 (2025) 「高インフレ下のフランス農業の課題と展望」『総合政策』第26巻

(法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

客員研究員 須田文明・すだ ふみあき)